

〔全体計画〕

高等部生活 1 A コース 国語科学習指導案

日時	平成**年**月**日（*曜日）9：40～10：30	場所	〇〇〇教室
指導者	〇〇〇〇（T1） 〇〇〇〇（T2） 〇〇〇〇（T3）		
題材名	作文を書こう		
題材設定の理由	<p>本グループは1年生〇名，2年生〇名，3年生〇名の計7名で構成されている。休日の出来事を順序立てて書くことができ，自由な題材では30分間で200～300字の作文を書くことができる。書くことに対して抵抗感がなく普段会話の中では伝えきれていない気持ちや考え，個性的な文章表現をする生徒も多い。しかし語と語，文と文の繋がりが不自然であったり，助詞や接続詞を誤って使ってしまったたりして，内容が伝わりにくい文章になるため，自分の考えや気持ちを表現しながら，より読む人に伝わりやすい文章を書けるようになってほしいと考えた。</p> <p>以上の実態から，本題材「作文を書こう」を設定した。本題材は，特別支援教育学習指導要領高等部国語1段階（4）「手紙や日記などを目的に応じて正しく書く」に基づき，題材として先日行われた学校祭（〇〇〇祭）を取り上げる。</p> <p>指導にあたっては，生徒たちが意欲をもって学習に取り組めるように生徒の作文を集めた，世界に1つだけの「A文集」を作成する。A文集を作るための段階として発想・選材・構成・記述・推敲・評価を設ける。〇〇〇祭の様子を写真で振り返り，その中から書きたい内容を選び，5W1Hを使用して文を作成する。作成後，チェックリストに沿って読み直し，必要な事柄を書き加え，読み手に伝わりやすいように推敲する。最後には作文を発表し合って，感想を伝える場を設ける。そして，友だちの作文を読んで意見を伝え合う，共同学習を行う場面も設定する。</p> <p>生徒が段階的な学習を重ねていくことで書くことに対し自信をもち，相手に伝わる文章を書くことができることを目指す。その後の学習としては，様々な場面で自分の思いを伝えていく手段として，「書くこと」を活用できるように指導したい。</p>		
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを書いて伝えることの楽しさを感じながら進んで書くことができる。（関心・意欲・態度） ・5W1Hの文章に，場面の様子が分かるように書き加えることができる。（思考・判断・表現） ・作文の読み直しを行い，読み手に伝わりやすい作文にすることができる。（技能） ・作文用紙の決まりを学び，決まりを守って書くことができる。（知識・理解） 		
指導計画 (9時間扱い) 本時は 第8時	第1次	テーマを決めよう	1時間
	第2次	前半部分を書こう 5W1H／気持ち／助詞・接続詞の使い方／読み直し	3時間
	第3次	後半部分を書こう 5W1H／気持ち／助詞・接続詞の使い方／推敲／校閲	4時間
	第4次	発表しよう	1時間

〔本時の指導〕

1 全体目標

- ・自分の書いた文章を読み直し，読み手に伝わりやすいように工夫することができる。

2 生徒の実態及び個別目標

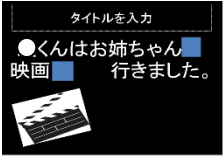
- ① 経験したことから書くことを決めることができる。(関心・意欲・態度)
 ◎：題に沿った事柄から自分で書くことを決めることができる。
 ○：写真を見ながら書くことを決めることができる。
 △：題に沿った写真を見て教員と一緒に書くことを決めることができる。
- ② 自分の考えや気持ちを書くことができる。(思考・判断・表現)
 ◎：自分の言葉で思ったことや考えたことを表現することができる。
 ○：表情カードがあれば作文に気持ちを書くことができる。
 △：教師の促しや表情カードがあれば作文に気持ちを書くことができる。
- ③ 作文を読み直し、正しい文章にすることができる。(技能)
 ◎：チェックリストに沿って正しい文章にすることができる。
 ○：チェックリストと複数の選択肢があれば正しい文章にすることができる。
 △：教師と一緒にチェックリストを確認しながら正しい文章にすることができる。
- ④ 正しい助詞や接続詞を使用して文章を書くことができる。(知識・理解)
 ◎：おおよそ正しく使用することができる。
 ○：選択肢を見ながら正しい助詞や接続詞を選び使用することができる。
 △：例文や選択肢があれば、正しく使用することができる。

生徒 学年 (性別)	生徒の実態				個別目標	主な指導場面 評価方法
	①	②	③	④		
A 3年 (*)	○ 写真を見ながら書きたい題材を選ぶことができる。	△ 複数の絵カードを提示すると気持ちを述べるができる。	○ ブラックライトペンを使用して直すことができる。	△ 選択肢から教員と確認すれば正しく使用できる。	・チェックリストに沿って自分で書いた文章を見直し、読み手に伝わりやすいように書き加えることができる。	場面 4-(3) チェックリスト
B 3年 (*)	◎	△ 「楽しかったです。」などの気持ちは書くことができる。	△ 教師からの指摘を受けて直すことができる。	△ 接続詞を選択することは難しいが、助詞「は」「が」を使用することができる。	・読み手に伝わるように事実を1つ以上書き加えることができる。	場面 4-(3) 作文用紙
C 2年 (*)	△ 教員と写真を確認しながら書きたい題材を選ぶことができる。	○ 表情カードからその時の気持ちを選ぶことができる。	△ 教師と「この接続詞は正しい？」など確認しながら直すこと	○ 誤っている言葉を指摘すると教員と一緒に正しいものを選ぶことができる。	・読み手に伝わるように1つ以上書き加えることができる。	場面 4-(3) 作文用紙

			ができる。			
D 1年 (*)	◎	◎	○ 詳細な手順表やブラックライトペンがあれば直すことができる。	○ 誤っている助詞を指摘することができる。	・チェックリストに沿って作文を読み直し、漢字や助詞など2つ以上正しく書き直すことができる。	場面 4-(2) チェックリスト
E 1年 (*)	◎	◎	◎	○ 間違えている箇所を指摘すると自分で直すことができる。	・友達の作文を項目に沿って読み、間違いなどを正すことができる。	場面 4-(2) チェックリスト 感想シート
F 1年 (*)	◎	◎	△ 一つ一つ教師と確認すると正確に直すことができる。	△ 一つ一つ教師と確認すると正しい選択を選ぶことができる。	・読み手に伝わるように事実を2つ以上書き加えることができる。	場面 4-(2) 作文用紙
G 1年 (*)	◎	◎	◎	○ 間違えている箇所を指摘すると自分で直すことができる。	・友達の作文を項目に沿って読み、間違いなどを正すことができる。	場面 4-(2) チェックリスト 感想シート

3 展開

※形態の表記は 全体：全，グループ：グ，個別：個

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む										
全 (5)	<p>1 始めのあいさつをする。</p> <p>2 ウォーミングアップを行う。助詞・接続詞のフラッシュカード(7題)</p>  <p>3 本時の学習内容を確認する。</p> <p>(1) 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一 作文を読みなおそう。</p> <p>二 作文を清書しよう。</p> </div> <p>(2) 本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の書いた文章を読み直し，工夫して書くことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・始めのあいさつ時に声の大きさ表を提示して声の大きさを分かるようにする。前を向き，姿勢を正すように言葉かけし，気持ちを切り替えることができる。 ・パワーポイントを用意しフラッシュカードで助詞・接続詞に関するクイズを行う。 ・ウォーミングアップを行い，勉強に気持ちを切り替えられるようにする。 ・文集完成までの道のりをホワイトボードに掲示し，見通しを持てるようにする。 ・本時の学習内容を提示した後に目標を提示することで，本時の学習内容を明確にできるようにする。 										
グ (35)	<p>①グループ【G，E】(T1)</p> <p>4 作文を校閲する。</p> <p>(1) 友達の作文を校閲する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作文を読む ② 校閲する ③ 助言・感想を伝える <p>(2) ブラックライトペンを使用し直しを行う。</p> <p>(3) 清書する。</p> <p>〈チェックリスト〉</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>内容</td> <td>「です」「ます」</td> <td>助詞の使い方は正</td> <td>接続詞の使い方は</td> <td>接続詞を使うこと</td> </tr> <tr> <td>は</td> <td>読んで分</td> <td>か</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	内容	「です」「ます」	助詞の使い方は正	接続詞の使い方は	接続詞を使うこと	は	読んで分	か			<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと読み合いを行い友だちの作文をチェックリストに沿って校閲する。 ・読んだ感想や助言を伝えやすいように，助言や司会やタイムキーパーを行う。 ・感想は感想カードに書き，それを見ながら伝えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・友達の作文をチェックリストに沿って校閲することができる。</p> </div> <p>場面4(1)②[チェックリスト，感想カード]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラックライトペンを使用し，生徒が意欲的に作文を直すことができるようにする。あらかじめブラックライトペンで作文に直しをしておき，自分の作文にブラックライトペンを当て，直し忘れていないか確認できるようにする。
内容	「です」「ます」	助詞の使い方は正	接続詞の使い方は	接続詞を使うこと								
は	読んで分	か										

②グループ【A, D】(T3)

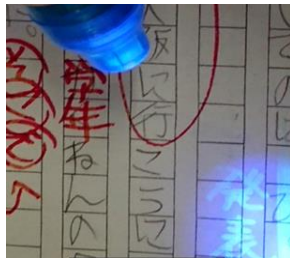
4 作文を推敲する。

(1) 声に出して自分の作文を読み直す。

(2) チェックリストに沿って推敲する。



(3) ブラックライトペンを使用して直しを行う。



(4) 清書する。

- ・前回に書いた作文を配付し、自分で読み直し、書いた内容を思い出せるようにする。
- ・一人一人の実態に合った推敲チェックリストを配付し、チェックリストに沿って自分の作文を読み返せるようにする。(作文用紙の使い方・助詞・接続詞の使い方・漢字・気持ち)

・チェックリストを見ながら作文を推敲することができる。

場面4 (1) ② [チェックリスト]

- ・チェックリストに沿った推敲が終わったらブラックライトペンを当て、直し忘れていないか確認できるようにする。

③グループ【F, B, C】(T2)

4 絵カード当てを行う。

(1) 問題を聞く。

(2) 合う絵カードを選ぶ。

(3) 不足している内容を書き加える。


(4) 清書する。



- ・各生徒の作文を段落ごとに分け、読み札とする。読み札に合う絵カードを用意する。
- ・作文を書いた生徒は読み札を読み上げ、2人の生徒は、読み札に関する質問を聞いて読み札に合う絵カードを選べるようにする。
- ・取り手が誤った絵札を選んだ時は、作文の内容が分かりにくいことを説明し、書き加えられるようにする。
- ・きちんと読み手に伝わっていることが確認できる絵カードも用意する。

・作文を伝わりやすくするために書き加えることができる。

場面4 (3) [作文用紙]

<p>全 (5)</p>	<p>5 振り返りをする。</p> <p>① 振り返り表を書く。</p>  <p>6 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り表を使って自分で客観的に評価することができるようにする。 ・自己評価を終えた生徒にコメントを書き、頑張った点・課題を伝える。 ・全体で目標への振り返りを行う。次回の学習内容を告知し、学習の繋がりを意識でき、見通しがもてるようにする。
------------------	--	---

【板書計画】

まとめ

配置図

今日の学習

- ① 作文の直し
- ② 清書

やることグループ発表

- ① グループ 写真 写真
- ② グループ 写真 写真
- ③ グループ 写真 写真 写真

目標

- ・自分の書いた文章を読み直し、工夫して書くことができる。

A文集をつくらう！
作文を読み直そう！

